

里子の自立のための研修会 ～自立した里子の経験談から学ぶ

特定非営利活動法人 神奈川フォスターケアサポートプロジェクト
〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台 7-28-3

助成事業の概要

社会的養護である里親家庭で生活している里子にとり大学の受験を目指す子や社会で働く子ども達は高校を卒業後にいろんな不安を抱えています。しかしながら、社会的養護の枠組みで見守り、支援、サポートしている里親・児童養護施設・児童相談所の方々に、そのような不安について具体的な内容を知る機会はありません。この事業では自立した子ども達（ケアリーバーと呼びます）の講師をしてもらい実際に直面した課題・問題と解決した経験談を発表し、更に懇談をすることで関係者への支援の参考にしてもらおう。

2月24日11:00～15:00 相模女子大学 マーガレット本館 2141教室11:00～12:00を第一部としてケアリーバー全員の紹介を行う。昼食を挟んで第二部は、13:00～15:00を、二つのグループに分かれて関係者からの質問に対して、ケアリーバー達の経験談を話してもらおう進め方で行なう。

事業の成果

本事業の目的である自立したケアリーバー講師（NPOスクーリングプログラム修了生講師）の経験談により社会的養護関係者に今後の行政の課題を明確に出来た。

さらに研修会の企画段階から当日運営までをNPO修了生のケアリーバーに任せて実施する事が出来た。

また、研修会報告書作成のため、研修会の音声

データをケアリーバー自身で文字起こしした上で、参加者による編集会議を行い、報告書内容の校正などを行い報告書が出来た。

研修会を通じて自立に向けて里親家庭での具体的な課題が明確になった。

- (1) 里親家庭で高校3年生時、部活動を制限されアルバイトに集中せざるを得なくなる。卒業までに100万円の貯蓄を目指す場合が多い。
- (2) 高校生の就職活動は限られていて、学校からの紹介の会社を落ちてしまうと新しい会社への受験も難しい。
- (3) 里親家庭での人間関係の難しさ、困った時の相談相手が限られていて解決出来ない場合が多い。
- (4) 里親さんの変更も児童相談所へ申し出てもなかなか進まない。
- (5) ケアリーバー講師の中には、2人が大学進学しているが、貸与型奨学金を活用して大学に進むと卒業時には、400万円の返却必要な借金を抱えることになっています。近年譲渡型奨学金が少しずつ増えているものの、既に卒業して借金を抱えているケアリーバーへの支援も必要である。

以上の研修会結果で明確になったケアリーバーの課題も行政の今後の対応の参考にしてもらおう。

成果の広報・公表

研修会の報告書を500部作成し、

- (1) 神奈川県下の政令指定都市・中核都市・地域の5里親会に配布する。
- (2) 各地児童相談所の里親担当、里親支援機関

(フォスタリング機関) に配布する。

(3) 社会的養護の施設関係者と全国里親会を通じて行政関係者に配布する。

(4) 今年度は、7月13日に関東甲信越静里親協議会（関東地区7都県と新潟県、静岡県、山梨県の里親会の協議会）が相模原市の市民会館で開催されるので、当日の会場でも希望者に配布する。

(5) NPOのホームページ (<http://www.npo-k-fscp.jp/>) にも掲載して公表する。

■ 今後の展開

社会的養護のもとで生活している里子の自立支援中心の活動から社会に巣立ったケアリーバーの居場所、支援を加えた活動に拡大していく。

現在、社会に巣立ったケアリーバーの生活実態はつかむ事が難しい為に、自立した里子を経験された里親さんや児童養護施設に依頼して自立した子ども達にアンケート調査を実施してケアリーバー達の現在の状況を把握することから始める。その上で困難に直面しているケアリーバーたちに直面している課題・不安の解消の一助になるきっかけの事業を行う。

また、本プロジェクトの「自立のためのスクリーンプログラム」は、2009年から昨年度までに30人以上の修了生がおり、繋がっている仲間を通じて他のケアリーバーの状況を把握する。

以上の内容を今回企画運営したメンバーを中心に令和6年度の事業計画を検討し進める。